

4月号（平成28年）

木々の緑があざやかに、そして吹く風も爽やかな季節になりました。この春で成城高校定時制の校長として2年目になりました。

今年度は、18人の新入生と6人の編転入生を成城高校定時制に迎えました。先月に30人の卒業生を送りだし、また転校生も3人ありました。そして現在はちょうど100人の生徒がこの学び舎で学校生活を送っています。

私が担任をしていた時に、「もしも世界が100人の村ならば」をHRで学習したことがありました。いまではネットを利用すれば、この素晴らしい文章に触れることができます。もともとはメールだったそうですが、この文から私たちは人々の多様性や貧富の差など多くの気づきなどを理解することができます。今の成城高校の定時制の生徒が100人という数字から思いだした訳です。ここ成城高校定時制には、かつて200人を超える数の生徒がいた頃から、こうして少なくなってしまったとしても、夜に学び、互いに協力しあい、そして成長するという学校の精神は変わっていません。100人という生徒は、誰ひとりとして同じではなく、それぞれに目標や学校歴、様々な生活背景などを持っている生徒たちです。一人ひとりの違いを理解しながら全員が個性豊かに、他者と協力できるように育てていきたいと思っています。

4月に人事異動がありました。お世話になった先生方が退職や転勤で4人が本校を去り、新しく若い先生6人を迎えています。まだまだ慣れていないところもありますが、フレッシュな職員集団で活発になったように感じています。教職員集団のチームワークや仲の良さは伝統として引き継がれており、その影響が生徒間の人間関係にも影響されるといえるのかも知れませんが、登校してきた生徒たちは、皆が仲良く生き生きとしているように思います。4月の授業の様子を見ていても、明るく前向きに勉学に励んでいる生徒たちの姿がありました。学校の授業などの勉強での成長はもちろん大切ですが、こうした良好な雰囲気と人間関係が成城高校定時制にあることも自慢できることであると思っています。

成城高校の校舎について書きます。元々が工業高校であったので、とても大きな工場棟があります。大きさは体育館くらいあると思います。今では総合学科になっていますが、工業高校の伝統は「ものづくり系列」という形で残っており、本校の大きなメリットとなっています。旋盤、フライス、溶接、木工工作機、CADなど多くの専門的な機械を使いながら実習で学んでいる生徒たちは真剣そのものです。もちろん、ふざけては怪我の危険性もあるので、複数の教員で行う実習での安全指導は徹底されているからです。3年生になると週2回の授業が1～4限目まで、つまり一日のすべての授業がものづくり実習ということになっています。そのほか「生活科学系列」であれば一日中が家庭科に関する教科の実習です。「情報科学系列」であれば、コンピュータの実習だけの日があるのです。こんなふうに定時制でありながら、多様な学習や実習ができることが魅力ではないかと思っています。今年の新入生は男女9人の同数になりましたが、大きな工場棟を見ていると、かつては男子生徒だけで工場棟での工業関係の実習を賑やかにしていた成城工業高校の頃が夢物語のようでもあります。

今月も最後までお読みいただきましてありがとうございました。

成城高校 定時制 富田公一（とだこういち）